

## 卒業生代表の挨拶（全文）

冷たい風の中にも、春の気配を感じられるようになりました。枝先に並んだ新芽たちは、パッと弾けてほころぶ瞬間を、今か今かと待ちわびています。

本日は、新型コロナウイルス感染症による、大変な状況の中、私たちのために卒業式を挙行していただき、心から感謝申し上げます。

また、校長先生からは、心強い励ましの言葉をいただきました。胸に刻み、これからの糧といたします。ありがとうございます。

三年前、この学校を志願した時のことを懐かしく思います。附属高校の伝統と風格ある佇まいに、大きな憧れを抱きました。入学式の喜びは、はっきりと思い出すことができます。真新しいセーラー服や学生服が、さわやかで、同級生たちにとっても似合っていました。

入学するとまず待っていたのは、勉学という名の、自分との闘いです。

今振り返れば、あっという間でしたが、それは私にとって決して平坦な道のりでは、なかったと思います。先生方は単に教科書を教えてくださるのではなく、さらに深みのある知識を教えてくださいました。気が遠くなるほど、公式や文法、解法を詰め込んで、それを実際に使えるように訓練していただきましたが、できたと思えばまた正解が遠のくような、途方もない努力の連続でした。しかし、そこには、苦しみだけではなく、習得したものの数だけ、達成感もありました。勉学とは、成績という、数字で測れる結果だけでなく、それを身につける過程での人格形成にも意味があるのだと、先生方に教えていただきました。

また、この3年間では、勉学に励むだけでなく、沢山の行事や実習を経験しました。

中には、進路を決めることに大きく影響を受けた、社会見学実習がありました。

私が選択した実習先の法律事務所では、附属高校出身の3人の卒業生が事務所の中を案内してくださいました。法律を扱う仕事の内容は、多岐にわたり、ずっと勉強を続けているということでしたが、それをあらわすかのように、全員の机の上には、本が山のように積まれていたのです。それを見たときに、胸にこみあげてくるものを感じ、憧れが、目標へと変わりました。それがきっかけとなり、私は、希望する進路をはっきりと定め、自分の未来に対する期待を高めることが出来ました。

また、附属高校では、普段の課題から行事まで、皆でひとつのものを作り上げる機会が多くありました。

三年生、最後の辛夷祭の演劇では、大道具の係を担当しました。設計から組み立てまで初めての経験が沢山あり、戸惑うこともありましたが、仲間と力を合わせて完成することができました。

その際に、学校の近くの材木店の方々に、木の組み方や木材の選定までを丁寧に指導していただきました。

そのお店は、先輩方も代々お世話になっていたそうですが、毎年手伝ってくださった店主の方が最近お亡くなりになり、今年はまだみんな来ないかな、とあっていらしたそうです。

演劇が無事に成功したあと、もう一人の係の女子と、材木店にお礼に伺いました。皆の力を合わせて完成したバルコニーや階段の写真をお見せすると、とてもほめてくださり、「おじさんが生きていたなら、さぞかし喜んだでしょう」と言ってくれました。

その言葉を聞いたとき、これでやっと大道具としての役目を果たせたのだ、とホッとしました。そして、ふと後輩の皆さんのことが思いうかび、「来年もお願いします」とご挨拶いたしました。その時、64期の演劇のためだけだと思っていた大道具の仕事が、実は次の代、その次の代へと続く大切な役目も担っていたのだと、気づかされました。

このような場面はどのクラス、どの係の仕事にもあったと思います。実際に舞台上に上がるメンバーの努力は、計り知れないものだったでしょう。そして、裏方の、誰も気づかないところ、評価されることはないが、頑張りやりとげた仕事も、皆それぞれにあったことでしょう。その双方がああ素晴らしい舞台を作り上げたのです。

この経験で学んだ、「支えられることに感謝し、支えることを厭わない」という姿勢を、これからも大切にしたいと思います。

3年間の思い出は尽きることがなく、決して色あせることはありません。

合唱部で、皆の声を合わせてハーモニーを作り上げたこと。全力疾走した体育祭。

仲間と肩を並べて、その日の出来事や冗談を言い合いながら歩いた帰り道。

若い私たちの目は、希望に満ち溢れていました。そして、誰の笑顔も、輝いていました。

そんなかけがえのない思い出と経験を胸に、私たちは今日、巣立ちます。

この大切な日々を支えて下さった先生方、在校生のみなさん、父、母、保護者の皆様。

64期生に関わる全ての皆様に、心から感謝申し上げます。

最後に、64期生の一人一人の人生が、長く、実りあるものでありますように、そして東京学芸大学附属高等学校のさらなる発展を祈り、卒業生代表の言葉といたします。

令和2年 3月2日

64期 卒業生代表